

平成 17 年 10 月 31 日	病害虫発生予報 11月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
----------------------	-------------------------------	------------------------

安全・安心な農作物は，農薬使用の記録と農薬使用基準の遵守から！
農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます
 < 目 次 >

．今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
秋冬ハクサイ：軟腐病，黒斑細菌病，べと病，白斑病	1
冬レタス：すそ枯病，菌核病	2
イチゴ：うどんこ病	2
イチゴ：炭そ病，オンシツコナジラミ	3
【その他の病害虫】	4
秋冬ハクサイ，アブラナ科野菜共通，冬レタス，秋冬ネギ，イチゴ，促成ピーマン， 共通害虫	
．病害虫ミニ情報	
農薬登録速報(9月)の概要	5
平成17年の主な水稻病害虫の発生経過について	7
．病害虫資料室	
病害虫ミニ情報から	8
．今月の気象予報	
9	
．テレホンサービス	
9	
普通作物	029(226)5321
園芸作物	029(226)6131

本文に記載された農薬の登録内容は，平成17年10月31日現在のものです。
 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準，注意事項等を確認してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445
 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。
 ホームページアドレス <http://www.jpnn.ne.jp/ibaraki/>

・ 今月の予報
【注意すべき病害虫】

秋冬ハクサイ

1. 軟腐病，黒斑細菌病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	軟腐病：多い 黒斑細菌病：やや多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在，軟腐病の発病株率，発生地点率はともに平年より高い。特に早生で発生が多く，中生でも発生を確認している。

10月下旬現在，黒斑細菌病の発病株率は平年並である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高く，降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

すでに発生が認められる圃場では，発生状況に応じて薬剤散布を行う。今後，発生するおそれのある圃場では，初発に注意し，発生初期からの防除を徹底する。

薬剤散布は，薬液が葉裏や株元にもかかるよう丁寧に行う。

収穫間近の作型については，特に収穫前日数に注意して薬剤を選択する。

地下水位の高い圃場や排水不良の圃場では，排水対策を十分に行い，過湿状態にならないよう注意する。

細菌性病害の病原菌は傷口から感染するため，管理作業によって葉を折るなど，傷をつけないようにする。特に，降雨前後の作業時には十分注意する。

2. ベと病，白斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在，ベと病，白斑病ともに発病度，発生地点率が平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

今後の天候に注意を払い，降雨が続く場合には適宜防除を実施する。

薬剤散布は，薬液が葉裏や株元にもかかるよう丁寧に行う。

収穫間近の作型については，特に収穫前日数に注意して薬剤を選択する。

肥切れ，排水不良等は発生を助長するので，適切な肥培管理，排水対策等を行う。

冬レタス

1. すそ枯病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在，発病株率，発生地点率ともに平年よりやや高い。
気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高く，降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

今後の天候に注意を払い，降雨が続く場合には適宜防除を実施する。
薬剤散布は，薬液が葉裏や株元にもかかるよう丁寧に行う。
収穫間近の作型については，特に収穫前日数に注意して薬剤を選択する。

2. 菌核病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在，発病株率，発生地点率はともに平年並である。
気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生を認めた場合は，菌核が形成される前に発病株を抜き取り，防除を徹底する。
薬剤散布は，薬液が葉裏や株元にもかかるよう丁寧に行う。
収穫間近の作型については，特に収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
収穫後は，菌核を圃場に残さないよう被害残さを圃場外へ持ち出し，適正に処分する。

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在，発病葉率はやや高く，発生地点率は平年並である。
気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，ハウス内は発生を助長する条件になる。

(イチゴうどんこ病 続き)

[防除上注意すべき事項]

発生初期の防除を徹底する。「とちおとめ」は、うどんこ病が発生しやすいため、発生初期の防除が特に重要である。

薬剤は、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。

薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は行わない。

硫黄粉剤は、高温時には薬害を生じやすいので注意する。

2. 炭そ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在、発病株率、発生地点率とも平年並である。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並が高く、降水量は平年並が多いと予想され、ハウス内は発生を助長する条件になる。

[防除上注意すべき事項]

発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、新たな感染源とならないようにする。

3. オンシツコナジラミ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

10月下旬現在、発生時期はやや早く、寄生葉率、発生地点率は平年よりやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並が高いと予想され、ハウス内は発生を助長する条件になる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。

薬剤は、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
秋冬 ハクサイ	黒斑病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
アブラナ科 野菜共通	コナガ	発生量：平年並 ～やや少ない	10月下旬現在，ハクサイで平年並の発生である。また，フェロモントラップ（八千代町）への誘殺数は平年よりやや少ない。
冬 レタス	腐敗病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬 ネギ	さび病	発生量： やや少ない	10月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	べと病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	黒斑病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
イチゴ	ハダニ類	発生量：平年並 ～やや多い	10月下旬現在，平年並の発生である。ビニール被覆後は，ハウス内が発生を助長する温度条件となるため，発生初期の防除を徹底する。
促成 ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	ヒラズハナアザミウマ	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	シルバーリーフコナジラミ	発生量：多い	10月下旬現在，幼虫，蛹の平均寄生葉率は21%である。果実に着色異常を起こす可能性があるため，防除を徹底する。
共通 害虫	オオタバコガ	発生量： やや多い～多い	10月下旬現在，レタスで平年よりやや多い発生である。また，フェロモントラップへの誘殺数は，水戸市で平年より多く，坂東市で平年よりやや多い。
	ハスモンヨトウ	発生量：やや多い	10月下旬現在，レタスで平年よりやや多い発生である。また，フェロモントラップ（筑西市）への誘殺数は，平年よりやや多い。

農薬登録速報（9月）の概要

平成17年9月期間中（9/1～9/30）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規>ベニカDX

変更>Dr.オリゼスタークル箱粒剤, SDSドーシャスフロアブル,
TMボトキラー水和剤, アドマイヤーフロアブル, アミスターアチーブトレボン粉剤DL,
アミスタートレボンSE, アルバリン箱粒剤, オサダンフロアブル,
オルトラン水和剤, カンタスドライフロアブル, キンセット水和剤80,
クミアイアドマイヤーフロアブル, グリーンペンコゼブ水和剤,
サンリット水和剤, シンジェンタアミスタートレボンSE, スタークル箱粒剤,
セル苗元気, ダーズバンDF, ダントツ粉剤DL, ダントツ粒剤,
チルト乳剤25, ドーシャスフロアブル, トクチオン細粒剤F, トラペックサイド油剤,
ノンブラストレバリダ粉剤DL, バイエルブイゲットアドマイヤー粒剤, バイスロイド乳剤,
パダンSG水溶剤, ブイゲットアドマイヤー粒剤, ブイゲット箱粒剤, フォース粒剤,
フルスウィング, ペイオフME液剤, ベルクートフロアブル,
ホクコーDr.オリゼスタークル箱粒剤, ホクコーオルトラン水和剤,
ホクコースタークル箱粒剤, ホクコー側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤,
ボトキラー水和剤, モリエートSC, モンカットファイン粉剤20DL,
モンカットフロアブル40, モンカット粒剤, モンガリット・ダイアジノン粒剤,
ヤシマバイスロイド乳剤, ロディーWDG, 三井東圧アルバリン箱粒剤,
三共グリーンペンコゼブ水和剤, 石原アオバ液剤, 石原ネマトリンエース粒剤,
側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤, 大塚グランドオリゼメートオンコル粒剤,
日産フォース粒剤, 日産モンカットファイン粉剤20DL,
日産モンカットフロアブル40, 日曹カンタスドライフロアブル, 日農フォース粒剤,
日農ボトキラー水和剤, 武田フォース粒剤, 明治Dr.オリゼスタークル箱粒剤,
明治グランドオリゼメートオンコル粒剤, 明治側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤

除草剤等

新規>アピロプロフロアブル, クサカリテイオー1キロ粒剤51,
クサカリテイオー1キロ粒剤75, 協友キリフダエースジャンボ,
三井東圧クサカリテイオー1キロ粒剤51, 三井東圧クサカリテイオー1キロ粒剤75

変更>JAサムライジャンボ, JAサムライフフロアブル, SDSイッテツ1キロ粒剤,
SDSドニチ1キロ粒剤, アグロスシーゼットフロアブル, アピロスター1キロ粒剤,
アピロトップ1キロ粒剤51, アピロトップA1キロ粒剤36, イッテツ1キロ粒剤,
クサノンQ微粒剤, クミアイスマートフロアブル, グラスショート液剤, サムライジャンボ,
サムライフフロアブル, シオノギ・ポラリス液剤, ステップフロアブル, スマートフロアブル,
ダイナマンDフロアブル, ダイナマンフロアブル, ダブルスター1キロ粒剤,
テンカムテキフロアブル, ドニチ1キロ粒剤, バイエルネコソギクイック微粒剤,
バイエルスマートフロアブル, バイエルダブルスター1キロ粒剤,
バイエルテンカムテキフロアブル, バイエルドニチ1キロ粒剤, ハビコラン粒剤,
ブロンコ, ホクコーステップフロアブル, ホクコーチョップフロアブル,
ホクコーハチクフロアブル, ホクコーポラリス液剤, ホクコーユニハーフフロアブル,
ホクコーラクリーンジャンボ, マサカリLジャンボ, モンサントラウンドアップ,
ヤシマシーゼットフロアブル, ユニハーフフロアブル, ラウンドアップ,

ラウンドアップハイロード，ラウンドアップライトロード，ラムロード，
ロードキーパー粒剤，三共シーゼットフロアブル，草闘力ふるあぶる，
東ソーシーゼットフロアブル，日産アピロスター1キロ粒剤，
日農ステップフロアブル，日農ダイナマンDフロアブル，日農ダイナマンフロアブル，
日農マサカリLジャンボ，理研ショートキープ液剤

植調剤等

変更>カヤクカルパー粉粒剤16，カルパー粉粒剤16，ビビフルフロアブル

展着剤等

変更>まくぴか

失効農薬

アグロスクサウロン微粒剤，アグロスサイアノックス粉剤3，アグロスマラソン粉剤2，
アライズ液剤2，キタバイバッサ粉剤DL，クミアイアリジマン水和剤，
クミアイビームトレボンゾル，クミアイヒノザン粉剤DL，クミアイレルダン乳剤25，
シンジェンタ・クサナインLフロアブル，シンジェンタ・クサナインフロアブル，
スルエート24，ダクタール水和剤，トモオキシラン水和剤，
トモノディプテレックス乳剤，ビームモンセレン粉剤5DL，
ビームラントレボン粉剤5DL，フジオキシラン水和剤，
ホクコーポリオキシシンAL乳剤，ヤシマバサジノン微粒剤F3，
ローヌ・プーランロブグラン水和剤，ワンパット水和剤，三共ギーボン粒剤1.5，
日産ザイトロン微粒剤，有機アリジマン水和剤

農薬の登録失効は，同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので，ご注意願います。

平成 17 年の主な水稻病害虫の発生経過について

1. イネミズゾウムシ

4月は低温傾向であったため、成虫の水田への侵入開始時期は平年よりやや遅くなりました。5月も気温が低い傾向が続いたことから、水田における発生のピークは5月末から6月中旬と平年よりやや遅く、発生量は平年並でした。

2. イネドロオイムシ

幼虫の発生時期はやや遅く、幼虫の発生が多くなる6月の降水量は少なかったことから、発生量は平年並でしたが、県北地域の沿岸部で多発した圃場が確認されました。

3. いもち病

葉いもちの初発時期は6月末と平年よりやや遅く、梅雨明けは7月18日と平年より2日早かったことから、例年発生が最も多くなる7月下旬においても発病は概ね下葉に留まり、発生量は平年より少なくなりました(図1)。

穂いもちは、伝染源となる葉いもちの上位葉での発生が少なかったことや、出穂期以降は晴天に恵まれたことから、発生量は平年より少なくなりました(図2)。

4. 紋枯病

6月下旬から発生を認め、全般的に発病進展は遅く、発病株率は平年より低く推移しました。常発田では上位の葉鞘まで発病を認めましたが、発生量は平年より少なくなりました(図3)。

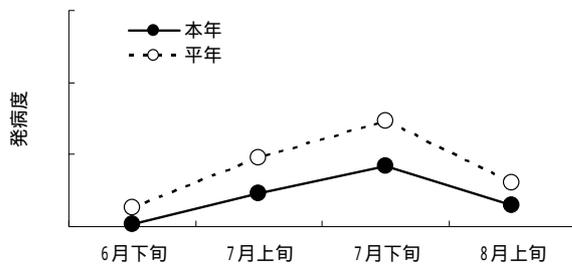


図1: 葉いもち発病度の推移

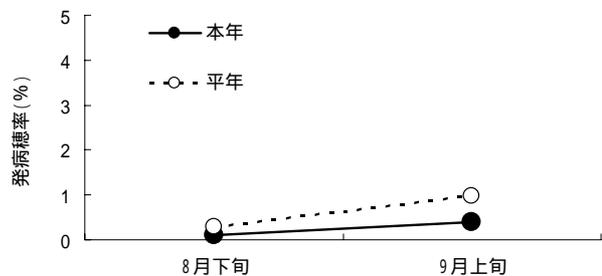


図2: 穂いもちの発生推移

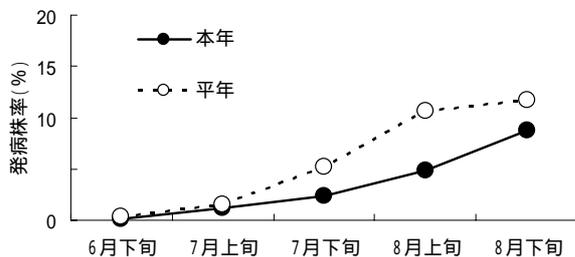


図3: 紋枯病の発生推移

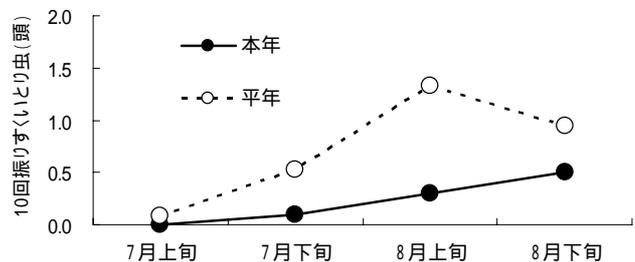


図4: 斑点米カメムシ類の発生推移(水田)

平年：病害虫防除所調査値の過去10カ年の平均

5. 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類のうち、本県の水田で最も発生が多いクモヘリカメムシは、イネ科雑草において、成虫が6月下旬から確認され始めました。7月下旬には、常発地のイネ科雑草で多く発生した場所も確認されましたが、イネ科雑草での全体的な発生量は平年並でした。

水田においては、出穂前の7月上旬に県北地域で確認され始めました。その後、生息密度は8月上旬まで全般的に平年より低く推移し、8月下旬の発生量は平年並からやや少なくなりました（図4）。

6. その他の病害虫

ニカメイガ

近年は大きな被害はありませんが、本年は県全体で発生が目立ちました。ニカメイガとよく似た被害となるイネヨトウも発生しています。

（病害虫資料室参照）

病害虫資料室

病害虫資料室 【病害虫ミニ情報から】

病害虫防除所ホームページで写真をご覧ください。

水稻

ニカメイガ

発生地域：県内全域

発生生態と被害：老熟幼虫が稲ワラや刈株の中で越冬する。成虫は年2回発生する。越冬世代成虫は5月中旬頃から発生し、6月上旬に最盛となり、イネに産卵する。卵からふ化した幼虫は茎内に食入する。第1世代幼虫による被害として、6月下旬～7月下旬に茎の下部が黄色くなり、芯葉が枯れる症状が観察される。第1世代成虫は7月下旬から発生を認め、8月中旬に最盛となる。第2世代幼虫による被害は、出穂できずに出すくみとなったり、出穂しても白穂となったりする。

防除対策：被害が多かった水田では、稲ワラを早期にすき込み、腐熟させる。薬剤防除を行う場合の散布適期は、第1世代幼虫に対しては発蛾最盛期（例年6月上旬）の10～15日後、第2世代幼虫に対しては発蛾最盛期（例年8月中旬）直後～1週間以内である。

写真1 ニカメイガ成虫

写真2 ニカメイガ幼虫

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 10月29日から11月28日)

気象庁 (10月28日 発表)

< 向こう 1 か月の気温 , 降水量 , 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。向こう 1 ヶ月の平均気温は高いでしょう。降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年並でしょう。

< 1 週目の予報 > 10月29日(土曜日)から11月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 並か高い

< 2 週目の予報 > 11月5日(土曜日)から11月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い

< 3 週目から 4 週目の予報 > 11月12日(土曜日)から11月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 並

・ テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病虫害の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

普通作物 029 (226) 5321

1 1 月上旬 麦類の病害対策について

下旬 本年の水稻における主な病虫害の発生経過について

1 2 月上旬 本年のサツマイモ , ダイズにおける主な病虫害の発生経過について

園芸作物 029 (226) 6131

1 1 月上旬 施設野菜病虫害の発生予想と防除対策について (1)

中旬 ナシ , カキの落葉処理と休眠期防除について

下旬 ブドウ , クリの落葉処理と休眠期防除について

1 2 月上旬 施設野菜病虫害の発生予想と防除対策について (2)